

◆teku-teku共同企画2018★会津のまちづくり（活動記録＋評価結果）◆

企 画◆会津のまちづくりを考える（会津若松・喜多方・大内宿）

日 時◆2018年 6月23日（土）13時～6月24日（日）15時

コース◆＜第一日＞会津若松：白木屋漆器店（高瀬社長より説明・見学）～七日町通りとリノベーション建物群（七日町駅・パティオ・市民広場他）～野口英世青春通り・福西本店（内部見学）～会津稽古堂（七日町通りまちなみ協議会より説明）～渋川問屋（意見交換会）

◆＜第二日午前＞喜多方：三津谷レンガ蔵群（見学）～小荒井地区ふれあい通り（若喜商店・甲斐本家他見学）～小田付地区重伝建申請地（和飲蔵・出雲神社・南町2850プロジェクト他）～東町会陽館（小田付町衆会から説明・意見交換）

＜第二日午後＞大内宿：重伝建地区（町並み見学・下郷町役場と意見交換）

参加者■◎横田宜明＋呉祐一郎、磯田尚子、大竹 亮、大谷昌夫、神谷友子*、栗原 徹、佐々木龍郎*、志岐祐一、重永真理子、高見澤邦郎、徳竹忠義、二瓶正史、野口雄史、藤井正男、古里 実、溝辺正浩、山田幸正（計18名、*初日のみ参加、◎コーディネーター）

企画主旨■会津のまちづくりを3地区を通して考えます。会津若松中心部の七日町通りでは、歴史的な建物を保存修景しながら、城下町らしい特色のある商店街の再生が進められています。また、喜多方市街地を流れる田付川を挟んで東側の小田付地区（旧米沢街道）と西側の小荒井地区（ふれあい通り）では、蔵造りの町家が並ぶ歴史的景観をそれぞれの方法で保存整備しています。そして、会津西街道の半農半宿集落の大内宿では、重要伝統的建造物群保存地区として茅葺きの宿场景観がほぼ完全な形で残されています。歴史的資産を活かしたまちづくりと、歴史や伝統の中での営みや暮らしについて、会津若松市、喜多方市、下郷町大内宿それぞれの取り組みを通じ、会津のまちづくりを考えましょう。



＜参加者の意見・評価＞

（注）評価は、A：非常に良い B：良い C：普通 D：良くない
の4段階。コメントは、評価の理由、感じたこと、考えたことなど。

1 ◆◆会津若松のまちづくり（七日町を中心に）

1-1 ◆七日町通り（全体）

評価：4.08 内訳：AAAAAAAABBBBC

評価A●七日町駅から中心街の800mの七日町通りが軸線として認識できる。空き店舗が目立ち観光は考えられなかった従前の状況を踏まえると、景観の配慮の取り組みの成果が十分に上がっている。

評価A●蔵造りの商家、木造の町家、近代洋風建築、レトロ看板建築などが混在しており、街並みの統一感はい少ないが、楽しい景観になっている。元気に商売を続けているお店が多くて頼もしい。

評価A●訪れるまでは、明治初めの戦いで被災したので歴史的な街並みにはあまり期待していなかった。明治以降の建物が、しっとりとした雰囲気を出し出す伝統的な城下町が魅力的。

評価A●渋川氏など地元パワーを中心に誘致、リノベの活動が実行されている。運営のマネージャー役がいる。まちづくりとして適当な規模設定

評価A●商店街の方々の努力とその結果が傑出していると思います。

評価A●画一でなく、いろいろな建物、商品、取組があって面白い。

評価A●地図を手に町を歩く老若男女に出会った。

評価B●大町四ツ角から七日町駅までかなりの距離だが、白木屋漆器店をはじめとする歴史的建造物やリノベーションされた建物があるため、歩ける街になっている。

評価B●様々な時代の建物が様々に改装されて使われているのが面白かった。擬洋風建物から近年の建物までデザインの工夫が大都市部の規範的デザインと異なってユニークな工夫が多く見られるように感じた。

評価B●七日町まちづくり協議会の取り組みの成果を実感できました。

評価B●以前は3軒に1軒は空き家だったということが信じられないほど成熟したまちだった。

評価C●「良い」とも「良くない」とも言い難い。これまで地元の商店、協議会、市当局が互いに模索しながら、独自に努力されてきた成果としては大いに評価されよう。それだけに今後は、文化的な価値を軽視するような改修・改築、活用はさけるべきであり、「残すべきモノ（価値）」を吟味し、それらをより高度な価値として位置づけるような活用であってほしい。

1-2◆白木屋漆器店（七日町通り）

評価:4.69 内訳:AAAAAAAAAABB

- 評価A●七日町通りに面した象徴的な建築であるとともに、漆器店として会津若松の産業と文化を支えている。
- 評価A●通りに面した壮麗な洋風ファサードに驚いた。隣のクラシックな旧銀行建築と並んで坂の上にそびえ建ち、会津若松の繁栄の底力を実感した。伝統の漆器店として会津の文化的価値も体現している。
- 評価A●土蔵造りながら通り側は洋風建築という、当時は相当斬新だったのではないかと。内装のつくりもレベルが高く、他の建物もだが様々な工法を駆使していることから、会津の建築技術の高さに感心した。
- 評価A●ファサード・店舗と蔵座敷の対比、長い年月にわたり使われている空間に入った時の心の落ち着きなど、素敵な空間体験。店主ご夫妻の長年のご尽力に敬意。
- 評価A●伝統産業を立派な建物とともに今に伝えているご夫妻にご案内いただき、今回の研究会の印象の一つとなりました。
- 評価A●重厚な洋風建築で、昔から商業施設としてだけでなく文化拠点としても役割を担っていたと思わせる。
- 評価A●敷地の奥行きが広く、店舗の奥に、蔵や庭木があった。2階の会津塗の資料室が充実していた。
- 評価A●現在も漆器店として歴史ある建物を活用している点が素晴らしい。
- 評価A●300年続く伝統を繋いでいただきたい。
- 評価A●出入りの宮大工の丹精かけた素晴らしい建物で、とても価値があると思いました。奥の座敷の伝統建築も歴史的価値がありますが、表の店舗建築の擬洋風の意匠がとても興味深かったです。東京にこの時代の店舗建築がなくなっているの、当時の様子がよくわかりました。聞くところによるとこれを作った宮大工は写真なども趣味のとてもモダンボーイだったようです。当時のことが想像できます。
- 評価A●文化財指定を受けることなく、独自の信念と努力によって残すべきところはきちんと残し、商売と生活が維持されている。ただ、次世代に向けて、これまでの努力をどう継承していくか、具体的な道筋を考えるべき時ではないかと思う。
- 評価B●個人の努力として敬服させられる。ただし下降気味を感じる。
- 評価B●建物も持ち主の方も、歴史と品があって魅力的だった。



七日町通り上の区の白木屋漆器店と旧銀行建築(右)



沿道建物のリノベーションが進む七日町通り

1-3◆七日町レンガ通り・七日町市民広場等の道路修景

評価:2.62 内訳:ABBBBBBBBBCCD

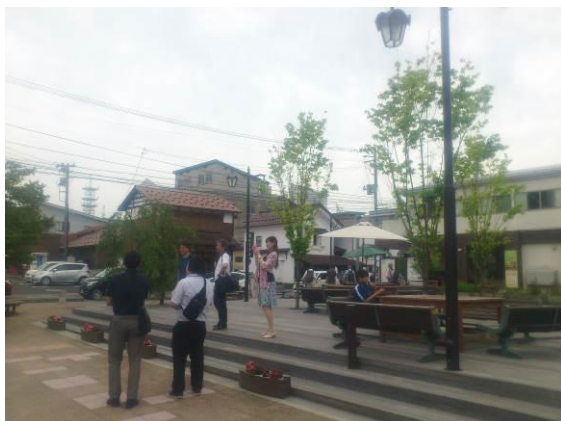
- 評価A●市民広場はかつてのガソリンスタンド。廃業後は協議会がイベントを行ったりした活動が市民広場へ展開された。レンガ通りは渋川問屋の建物と一体となった優れた修景。もっと連続性があるとよい。
- 評価B●通りだけでなく、個人のお店にも休憩スペースがあり、親しみやすかった。
- 評価B●両側に歩道が整備され、店先のベンチ等と相まって楽しく歩きやすい。市民広場は大味でやや散漫。
- 評価B●七日町市民広場は道路修景と旧市街側とのエッジにあたり、憩いの空間としても地元活動の拠点としても大事と思いました。道路と歩道の段差縮小や変圧器の設置場所など工夫していますが、県、市、地元の意向が合わせられれば、より一層の効果が期待できるのではないのでしょうか。
- 評価B●行政との関係など様々ある中で、地元の合意形成を図り、きれいに修景されていることは評価できる。歩きやすい道という点では工夫が必要では。七日町市民広場は当分GSのままだにして、地域の方々に使い方を任せてしまったら、意外性のある使われ方や空間の出現が期待できたのでは。
- 評価B●無電柱化、旧GSの広場化などそれなりの成果として評価できる。ただ、一部の修景に疑問が残る。車道の交通量と歩行者の安全確保等の課題もみられ、中間を貫く計画道路「けやき通り」も大いに疑問。
- 評価B●地味。モニュメント性が欲しい。

評価B●今の段階では、効果がまだよく分からない。七日町駅舎は、思い切ってここまで作り込んだのは良い。
 評価B●全体的には悪くないが、途中の駐車場のガードレールが街並みにそぐわない。
 評価C●全体として雰囲気は歩行者が優先して快適に歩けるコミュニティ道路としては成功していると思いますが、意匠的にもう少し地域性や楽しさの工夫がほしかったと思います。
 評価C●活用している現場を見られなかったので印象が薄いです。
 評価D●市民広場のウッドデッキもいけれども、どこか借りてきた感がある。

1-4◆七日町パティオ

評価:4.08 内訳:AAAAAABBBBC

評価A●町家の構成と土蔵などの建物をうまく生かしつつ、現代的センスのお洒落な商業空間になっている。
 評価A●奥行のある土地をうまく活用した小さいながらも心地の良い空間。2階の使い方にも期待したい。
 評価A●奥に入るに従い、「複数の蔵が外部空間でつながる」、楽しい空間になっていた。
 評価A●建物と中庭のデザインが良く、とても居心地の良い空間になっている。
 評価A●町家の敷地形状を利用して、奥へ奥へと次々に誘われる魅力的な空間。
 評価A●古い商家を使った中庭のある空間がよい。
 評価A●現代性をうまくアレンジしている。
 評価A●これだけの投資と活用を実現することは大変なことだったと思います。
 評価B●中に入ると別空間が広がっていて面白かった。通りから奥まったところの蔵をうまく活用していた。
 評価B●奥行きのある敷地や蔵をうまく使っている。2階が空き店舗になっていたのが惜しい。
 評価B●沿道の煉瓦蔵、奥の土蔵を残し、中庭などを修景することが一応成功しているようにみえる。ただ、煉瓦蔵2階、奥の土蔵が未使用のままで、改修修理とテナント募集のマッチングなど困難さが伺える。
 評価B●入り口が狭いうえに、中にどんな店やスペースがあるのか、外観から分かりにくい。
 評価C●パティオの利用に関して特徴のあるプログラムがあると、もっと場が活きてくると思います。それによって、パティオももう少しユニークな設えや生活観が出てくると思います。



七日町通り中の区にある七日町市民広場



煉瓦蔵や土蔵などを転用した七日町パティオ

1-5◆福西本店（野口英世青春通り）

評価:3.92 内訳:AAAAAABBBBBBBB

評価A●会津若松市の中心部にあり、すばらしい蔵座敷を見学できた。文化的な拠点として活用を期待する。
 評価A●これだけ大きな屋敷を構成する建物が群として修復保存されて素晴らしい。間の路地空間も魅力的。
 評価A●黒漆喰の外壁と窓の重厚なつくり感激しました。また、母屋や奥座敷も豪華で、維持が大変とのことでしたが、建物の活用含め会津の歴史遺産として守っていただきたく思いました。
 評価A●素晴らしく立派な建物群で、一層の活用、訪問者の増加を期待します。
 評価A●贅を尽くした貴重な建物がきれいに手入れされており、敬服する思いだった。
 評価A●圧倒された。
 評価B●文化財価値は大きく、保全状態も素晴らしい。細部の工夫も往年の財力とまた地域性も感じられた。
 評価B●改修保存を徹底的に行っている。床も壁も光沢のある仕上げにびっくりした。
 評価B●いかにも町家らしい建物。使われ方も面白い。
 評価B●品と艶があり、うまく活用できるといいなと思った。
 評価B●まちづくり会社が建物を所有する仕組みで歴史的建造物の再生が可能となり、他でも参考になる。
 評価B●豪華さは見どころとしてあるが、今後まちづくりの中でどう生かしていくかが課題。

評価B●複数の土蔵の集合体としての大規模商家として極めて特異で貴重な遺構であり、それらがよく残されている。内部空間を中心に、「上質な感じ」で修理工事がされているようで、それなりに評価したいが、文化財的な修理工事としてはやや疑問が残る点がある。これだけの建造物であるだけに、素人目の良さだけを求めるのではなく、オーセンティックな修理改修をしていただきたかったと思う。

1-6◆渋川問屋（七日町通り）

評価:4.38 内訳:AAAAAAAAABBBB

評価A●「下地区」におけるランドマークとなっており、七日町通りを代表する大規模な商家の活用例として素晴らしい。意見交換会もいろいろな話が聞けて、よかったと思う。

評価A●建物や中庭を残しながら、歴史的なストックが宿泊やレストランとして一般向けに活用されていることは素晴らしい。会津の繁栄を一般に伝える良い活用方法だと思いました。

評価A●七日町のモニュメントとして、食事処として結構な存在。

評価A●奥に進む程豪華になる。商家の底力を感じる。

評価A●当時の商業の様子も想起させながら、落ち着いた空間。

評価A●歴史ある建造物をうまく活用している。料理もかつて海産物を扱っていた渋川問屋を彷彿とさせる。

評価A●重厚なファサード、奥への通り庭、豪華な座敷、中庭と蔵など往時の繁栄を十分に想起させる。

評価A●料理も会場の雰囲気もとても良かった。

評価A●懇親会場として楽しませていただきましたが、今度宿泊もしてみたいです。

評価B●かなり大規模な歴史的建造物であり、郷土料理を出す店として再生することでうまく活用されている。

評価B●歴史的建物の好ましい活用事例。庭も含め建物の集合体の魅力的多様性を活かした利用ができています。

評価B●交易で栄えた往時の面影がある。

評価B●品があった。庭と一体的な感じもよかった。



七日町通り下の区に重厚に構える渋川問屋



改修保存された野口英世青春通りの福西本店

1-7■会津若松で今回歩いた中で特に印象に残った場所・建物等

白木屋漆器店★歴史ある建物を漆店、ギャラリーとしてきれいに活用され、経営されている点が素晴らしい。

白木屋漆器店★時代の積み重ねに感服。

白木屋漆器店★ストックとしての質の高さ。

白木屋漆器店★都立大出身で地元出身ではないご主人の会津への愛着が印象的。

白木屋漆器店の店舗建築★擬洋風建築の大工の挑戦の成果。

白木屋漆器店と旧郡山橋本銀行★壮麗なファサードが並ぶ姿は圧巻。

滝谷建設工業（旧郡山橋本銀行）★ファサードの6本の円柱は圧巻。

バンダイスポーツ★洋風建築がレトロな雰囲気を醸しだしている。

池田屋酒蔵（集合写真を撮影）★蔵造りの店舗のリノベーションがよい空間を創っている。

鶴乃江酒造（会津中將）★飾ることなく歴史を感じさせる。

七日町駅★駅舎の改修もレトロなデザインが引き継がれ、まちづくり会社が物産展店を運営していること、スロープでホームに入れる平屋の駅の良さを活かしていることなど好感度が高い。

七日町駅★駅舎をカフェやお土産屋にすることで、地域の拠点になっている。

七日町駅★駅舎の外観が瀟洒で、併設のアンテナショップも魅力的である。

観光案内所★案内の方が、この20年余りの商店街の再生、入込客の増加を実感を込めて説明してくれました。

七日町パティオ★居心地の良い、小気味よい建築。

七日町パティオ★人が留まれるスペースが多く、くつろげる場所。

七日町パティオ★外観は地味だが、中に入ると明るく奥まで見通せて、とても心地よかった。

福西本店（野口英世青春通り周辺）★ストックとしての質の高さ。

渋川問屋★泊ってみたい。

渋川問屋向かいの駐車場前の広場★ウッドデッキとベンチ、樹木が七日町通りにうおいを与えている。

様々な時代の自由でユニークな建築意匠の散見★これが会津なのか？

着物屋として改修中の商店★別の場所からこの商店街へ移転してくる意気を応援したいです。

リノベして空き家★七日町がこれからどうなるかのキーである。

会津稽古堂★まちなみ協議会、市、まちづくり会社の方々それぞれの立場からのこれまでの取組の説明、質疑をしていただき、興味深いものでした。

協議会組織の女性★年齢、才知、容貌、経験がマネージャー役に適している。

二次会で行った中心街★こちらが会津若松の現役の都市機能だが、若者の交流の場として賑わっていた。



駅カフェも併設された会津鉄道七日町駅



会津稽古館にて七日町まちなみ協議会の説明を聞く

1－8■七日町のこれまでのリノベーションまちづくりの成果をどう考えるか

●七日町通りはかなり長く、建物も城に近いエリアでは大きく立派なものが、反対の七日町駅に近いエリアではレトロな雰囲気のお店が多く一様ではないが、いくつかは昔からの業態を残し、また多くは業態を変えながらも、いずれもこれまでに残っている建物をうまくリノベーションして使って営業している店舗が並び、人口12万人という地方中小都市の商店街としては非常に空店舗の割合が少ないことに、とても驚きました。お話を伺った方々をはじめとする関係者の20年以上の努力の成果は、着実に表れていると思います。

●協議会づくりの背景にコミュニティの再構築があったことが印象的でした。県、市、地元、建物オーナーの認識の一致の難しさという課題もあるとのことですが、地元の意識を合わせることがスタートだったということかと思います。エリアが広く地元の組織も多く、また県、市、地元のコミュニケーションなど難しい課題が多いと感じましたが、修景した物件の多さからも、かなり地元を意識が浸透してきていると感じました。

●行政、まちづくり会社、地元組織などの関わりを十分理解できていないのですが、「ぜひもう一度訪問して蔵など建物をじっくり見て、漆器を買いたい」と感じさせる力があると思う。

●魅力的な店がたくさんあり、食材や料理も豊かで、楽しい。地元の人たちの地域への愛着を感じた。

●外の資本があまり入らず、地元の方のお店が多いことに好感が持てる。

●伝統的な修景でできた器に、少しずつ新しい業種の店が入り始めている。多くの人が押し寄せるよりも、城下町らしい落ち着いた賑わいにつながって来ていると思う。

●成熟さを感じるところがすごいなと思った。長年の努力が実をむすんでやっとここまできたのだなと思った。

●蔵がたくさんあって、うまく生かしていた。

●可能性のある物件についてはほぼ手がかりを付けた。

●とても良い方向の活動。外国人も含め観光客が増えると、ますます多様な改装利用の楽しさが強く出て来る。

●中心部に位置し、老舗が多く、まちづくりの合意形成が難しいようで、歩道や電線類の地中化が遅れている。

●七日町全体としてはリノベーションなどがかなり進んできており、まちづくりとしては上手くいっているのだと思う。しかし、七日町の通りの延長が非常に長いため、街並みの連続性が途切れる部分があるのが残念。

●成功だとは思いますが、観光客相手の店が目立ち、本来の地元の商売が消えつつあるのは残念。空き店舗も多い。

1-9 ■七日町の今後のまちづくりに向けた提案を

- これから更にリノベーションが進めば来街者も増加すると思うが、多くの観光客が押し寄せると街の魅力が損なわれるおそれもある。観光と生活者の街としてのバランスについて、どこを目指すのかを街の人たちで確認することが必要だと思う。
- 漆器などの産業を守り育て「会津に行けば本物に触れることができる」観光地に。生活者のためのまちづくりとの両輪で。地元の方々も会津若松の文化資産の蓄積を日常的に体験し、誇りを持ち続けてほしい。
- 大規模店舗とは違う、その地域、その店にしかないオリジナルのモノやコトを持つことと、その魅力をインバウンドを含めて上手にPRすることが重要だと思います。対外的には、会津は、歴史や豊かな自然などポテンシャルや知名度は高いという強みはある地域だと思うので、会津全体の魅力向上のストーリーと一体となった商店、商店街づくりに取り組んでいく方向が考えられると思います。
- 大型店との差別化としての「スローで小さなまちづくり」「気品」など、会津ならではの景観に留まらないまちづくりに期待したいと思います。そのためにも、県、市、地元、建物オーナーの連携、コンセプト実現に向けたテナントまで視野に入れた価値観の共有が必要ではないでしょうか。
- 特徴のある建造物が多く、継続して磨きをかけていくと更によりまちづくりが進んでいくと思う。
- 歴史建築物に対して驚くような斬新な改装があっても良いと思います。
- 鶴ヶ城や飯盛山に行く観光客から見ると、七日町の実在は気づきにくい。鶴ヶ城側の七日町の入口に人が集まる広場等を整備するのはどうか。
- 観光振興も大切だが、地元市民や高校生が買い物や休日を楽しく過ごせるような街になってほしい。
- これからも七日町まちなみ協議会のような地域の地道な活動が大切だと思う。
- どうなるか??? 協議会方式のまちづくり策として限界にきているのではないか。
- （まちづくり会津が福西本店の蔵を活用しオープンする）あんみつ屋の成功を祈っている。

2 ◆◆喜多方のまちづくり（三津谷、小荒井、小田付）

2a-1 ◆喜多方市三津谷レンガ蔵群（全体）

評価:3.83 内訳:AAAAABBBBBBBB

- 評価A ●レンガ蔵が周辺の緑と色のコントラストをなしながら全体的に調和する風景が美しかった。近隣の方々が道ばたに花を植えられているのを見て、先人の遺したものだけでなく、現在の自分たちができる形で大事にする姿勢が見て取れた。
- 評価A ●赤茶から焦茶まで多彩で、釉薬を施されて輝くレンガそのものが美しい。これを丁寧に積み上げた頑丈な壁と、アーチ型の入り口や屋根の下飾りなどのデザインに見とれた。集落全体のまとまりや、立ち止まれる場所がほしいと思う。
- 評価A ●ひっそりと穴場的な場所だが、明治期の産業のつながりを想起させる。
- 評価A ●ひっそりとした集落の佇まい、登り窯等しっかり残してほしい。
- 評価A ●遠隔地にありながらよくぞ残ったものだなあ。
- 評価B ●風土を伝える貴重な資源だと思います。
- 評価B ●ほのぼのとした田園の中に、レンガの蔵や登り窯がある風景はなかなか良い
- 評価B ●屋敷の立派なレンガ蔵や、今も使われている登り窯など、生産活動が続いていることが貴重な風景。
- 評価B ●往年の経済力とそれによって作られた集落の特徴的な景観に驚きました。
- 評価B ●会津の高度なレンガ造りを支えた生産拠点として興味深かった。一時の見学ブームが去ってしまったとのことであるが、もう少し街並み等への配慮があると良いと思った。
- 評価B ●あまり時間的な余裕がなかったのが、少し残念。訪問した民家だけでなく、登り窯を含めて、集落として文化的価値が高いと感じた。道沿いに花を飾る作業を子供など住民参加で行っていたことは、住民のその土地に対する思いを感じた。そうした価値をきちんと見せる仕組みが必要かもしれない。

2a-2 ◆三津谷・若菜家住宅

評価:3.73 内訳:AAAABBBBBBBB-

- 評価A ●建物や庭の手入れがよく、民具が保存され、時間がゆったりと流れている。
- 評価A ●建築素材として素晴らしいの一言に尽きる。建設由来の職人気質にロマンあり。
- 評価A ●建物だけでなく民具等も多く、見応えがある。
- 評価A ●レンガを使った蔵屋敷等、今のまま残してほしい。
- 評価B ●レンガの生産拠点として風格のある建物。もう少し当時の姿を残せないものかと思いました。

- 評価B●屋敷の中に立派なレンガ蔵がいくつもあり、アーチに薪を充填した光景は美しかった。
- 評価B●見せる整備に、もう一工夫ほしいが、魅力的。(あまりに駆け足で、申し訳なかった)
- 評価B●レンガづくり建物の面白さはA、観光施設としての活用はCという印象です。
- 評価B●ユニークな建築構造(煉瓦と木造の混構造)が興味深かったです。
- 評価B●レンガ蔵のアーチが印象的。
- 評価B●実際にお住まいになっている建物のように、外部からの見学にどのように対応するつもりか(どの範囲を見せるかなど)少し迷いがあるように思えた。周囲の案内掲示などをみると、集落全体としても、訪問や見学を歓迎する方向のようであるが、そのソフトが十分とは言えない。工夫次第では「煉瓦」をテーマとした文化観光が可能ではないかと感じた。



三津谷／煉瓦蔵屋敷の若菜家住宅(文化財4棟)



三津谷地区の登り窯

2b-1◆喜多方市小荒井地区・ふれあい通り(全体)

評価:3.67 内訳:AAAABBBBBBBBB

- 評価A●通りの両側に町家や豪壮な蔵が並んでいる。茶舗や酒蔵など今も地元のためのお店が多く安心した。
- 評価A●蔵の集合体としては一級品のストリート。それぞれの蔵の活用内容についてもう少し観察したかった。
- 評価A●ラーメンも独特の魅力だが、造り酒屋の店先で美味しい水が飲めるのも魅力的。
- 評価A●歴史的な遺産の宝庫で、多様性も高い。
- 評価B●歴史を感じさせる見ごたえのある建物が残っている。
- 評価B●地域でよくまとまって景観が形成されていると思います。
- 評価B●非常に多くの蔵が集積し、まちづくりの資源はとても豊富だが、思ったほど観光地化していない。
- 評価B●レンガや赤瓦の蔵が点在。見学できなかったが大和川酒造北方風土館に行きたい。
- 評価B●初めて来たのでこれがあの有名な喜多方なのかと思いました。町並みとして道路が思ったより広くて間が抜けている感じがしました(おそらく拡張した区間)。
- 評価B●蔵の集積だけで十分見ごたえはあった。過去の資産としての蔵だけでなく、「地元として蔵をこう活用している」というメッセージがほしい気がした。ラーメン以外の魅力の発信になると思う。また、なぜ喜多方がラーメンなのか?(味噌、醤油との関係などがある?)も発信して。
- 評価B●歴史的ストックが数多くかつそれなりの密度で残っており、電線類地中化含め伝建地区ではなかったのが意外でした。また、ふれあい通りから一歩中に入った街路は昔の雰囲気を感じられました。
- 評価B●町並み全体の佇まいには一定の価値が感じられ、無電柱化など、それなりの保存修景がなされているように感じた。また、町並みとしての全長がかなり長いようにも感じられた(当時の商業的な繁栄と集積を物語るものだろう)。ただし、小田付地区とは違って、そうした成果が伝統的建造物群の選定としてまとまらない背景の根深さに思いが及んだ。

2b-2◆若喜商店・レンガ蔵

評価:4.20 内訳:AAAAAABBBBB---

- 評価A●交差点に面して独特のファサードを見せる洋風建築の店部分とレンガ蔵とが調和し、街のランドマークになっている。
- 評価A●外観・アールデコを思わせる店舗部分と縞柿の蔵座敷との対比が面白い。
- 評価A●様々な装飾的なレンガ積みの技法と伝統的な蔵造りのマッチングが素晴らしい。
- 評価A●贅を尽くした総縞柿造りの蔵座敷や、美しいレンガ蔵は素晴らしい。
- 評価A●NHK美の壺で紹介された柿の木を使った蔵座敷、レンガを使った和風建築がよかった。

評価A●良く遺されていて、展示も丁寧。お店としても活用されている点が良い。

評価B●往時の経済力が想像できる建物の集積ですが、一番印象深かったのが木造の吊り構造の階段です。

評価B●洋風レトロの店舗部分と煉瓦造蔵座敷の組み合わせが良い。道路拡幅にかからないことを望む。

評価B●レンガの重厚感やつくりがしっかりしていて、技術の高さを感じた。内部が見学できるか店舗として活用するなど、ストックを活かす工夫がほしかった。



小荒井地区／若喜商店の煉瓦蔵と道路拡幅



小荒井地区／ふれあい通りに並ぶ蔵造りの商家群

2b-3◆ふれあい通りの道路修景

評価:2.58 内訳:ABBBBBBBBCCD

評価A●沿道の建物群を眺めながらゆったりと散歩できる。連続する大きな土蔵群を修景した一角は圧巻。

評価B●土蔵造町屋だけでなく、防火的でない木造格子組の町屋や、おそらく茅葺の町屋などが現存し、また、
脇道・枝道にも興味深い町屋が残り、町並みとしてのヴァリエーションにも着目した修景が望まれる。

評価B●「きれいに整えられている」印象はAだが、地元の生活感があまり感じられなかった。

評価B●無電柱化されゆったりと歩ける。町並みとして統一されたデザインがあるわけではないので、評価は
分かれるかなと思う。

評価B●蔵が集積する歴史的街並みとしては道路幅員が広く、少し違和感がある。

評価B●広い道路、電柱のない歩道は立派だが、沿道の歴史的建築物との関係が微妙にちぐはぐな感じがした。

評価B●歩道も広くて歩きやすいがあっけらかんとしすぎている。休んだり佇んだりできるスペースが欲しい。

評価B●雑然感あり。人だまりスペースがあると効果的だと思う。

評価C●道幅があり、歩道が整備、バリアフリーで歩きやすい。

評価C●きれいすぎる。街路樹もベンチもなく、暑苦しい。

評価D●自動車通行量もけっこう多いので難しいかもしれませんがコミュニティ道路か望まれると思いました。

2b-4◆甲斐本家・蔵座敷

評価:4.17 内訳:AAAAAAAABBBB

評価A●黒漆喰の蔵造りの重厚感や螺旋階段、座敷のつくりなどすばらしい。福西家もそうだが、4連続の2
階窓のファサードには圧倒される。応接や母屋の中に入りたかったが、外から見るだけなのが残念。

評価A●ふれあい通りの整備から外れた一角に、このような本格的な屋敷があるとは、街の底力を実感した。
蔵座敷ももちろんだが、豪壮な外観や美しい庭園もすばらしかった。

評価A●らせん階段や長大な床板等、材の使い方が豪快。庭園も素晴らしい。

評価A●表通り側も庭の中も、ボリュームに圧倒された。

評価A●豪壮な商家として、見世蔵と庭園だけでなく、屋敷全体として見学できるようにしたい。

評価A●立派な造りの近代和風建築で、NHK美の壺で若喜商店とともに紹介された。内部にあがれるとよい。
洋間を利用したカフェ、再開してほしい。

評価A●代表的な優れた建物がきちんと残り、また公開していただいて、感謝です。

評価A●すごいね～。

評価B●蔵座敷の建物もすごいが、店部分2階の重厚な窓が街並みとしては印象的。

評価B●きれいに展示保存されている。

評価B●もっと見たかった。

評価C●あまり強い印象が残ってないのですが、蔵の構造と書院座敷の設えと庭の関係が整合していない面白
さがありました。



小荒井地区／拡幅整備されたふれあい通り



小荒井地区／豪壮な甲斐本家の見世蔵と庭園

2c-1◆喜多市小田付地区（全体）

評価:4.17 内訳:AAAAAABBBBBB

- 評価A●何よりも古地図があつて、その主要要因が現存しているのが素晴らしい。いただいた報告書がよくまとまっていたわかりやすい
- 評価A●昭和30年以降の建物を対象にする伝建地区に興味深かった。30年以降のストックの評価が柔軟で、明治大正期のいわゆる歴史的建築物と一体となった地区の今後の景観やまちづくりに期待したい。
- 評価A●いわゆる一般的な伝建地区の印象とは異なる時代的・建築的な多様性が感じられ、街並み保存の枠にこだわらない建物活用という点で、より普遍性があると思う。
- 評価A●ふれあい通りと比べ物販だけでなく文化的に見て楽しめる印象。差別化でうまく共存できると思う。
- 評価A●重要伝統的建造物群保存地区への選定をめざした素晴らしい町並みだった。
- 評価A●現在進行中の努力と、今後への期待感にA。
- 評価A●今後の保存と整備、活用への期待を込めて評価しました。
- 評価B●地元関係者の取組により伝建地区としての指定について合意形成が図られたことに敬意を表します。
- 評価B●小田付地区のことは今まで知らなかったが、歴史的建造物がかなり集積しているのと、計画的につくられたと思われる街割りが面白い。
- 評価B●喜多方に2つの歴史地区があることを知りませんでした。小荒井地区と違った観光地らしくない素朴さが感じられました。
- 評価B●これからもっとよくなるとの期待を持った。
- 評価B●商業的な蓄積度の高い小荒井地区に比べると、町並みとしての密度が薄い印象を持つが、こうした密度感こそが「在郷町」という中心市街地から外れた地区としての特徴かもしれない。民家の裏側を流れる水路はそうしたものの典型であり、修景や活用において活かしてもらいたい。また、小荒井地区にはない、地区としての人（ソフト）のまとまりが強みであり、この点も今後活かすべき点となろう。

2c-2◆出雲神社と赤瓦の長屋

評価:3.36 内訳:AAABBBBBBBBC

- 評価A●古い長屋が現役で使われていて、神社から見る赤瓦が美しかった。
- 評価A●色彩としては地味であるが、コケラ拭き神社としては立派な建築だと思う。
- 評価A●神社側の明治の長屋と向かい側の昭和の長屋の対比が貴重な風景。ぜひ両方とも残して活用を。
- 評価B●神社の門前に位置する長屋は、なかなか味わいのあるファサード。
- 評価B●赤瓦の屋根や土の壁や柱の風合いが懐かしい。神社の門前に残っていたことを奇跡のように思う。
- 評価B●赤瓦の長屋は他所でもほとんど残っていない貴重な建物。使いづらい大きさだが、うまく再生して活用してほしい。
- 評価B●ふれあい通りと小田付地区を結ぶ軸線上にあるので、(道路拡幅は止めて)指定建築物にした方がよい。
- 評価B●都市計画道路の整備を急がず、沿道と交差点の位置づけや長屋の活用を地域みんなで考えてほしい。
- 評価B●興味深い建物、風景なので、使い方についていろいろアイデアを募ったらどうでしょうか。
- 評価B●長屋の活用保存に期待したい。
- 評価B●神社は地区の発祥の地として、また地区を挙げての祭りが開催されるなど、その位置づけは高いが、町並みの外れにあることが難点。参道周囲の長屋も、明治と昭和という時代の差が顕著で興味深く、価値が高いが、保存・活用となると難しい点が多くあるだろう。

評価C●出雲神社は道路拡幅と共に移動しているようですが、町に入る終点として以前のままとしといた方が良かったと思います。赤瓦の長屋は近世と近代の二つの時代の比較が面白かったです。



小田付地区／地元の会合に使われる和飲蔵



小田付地区／出雲神社前の長屋(左:昭和、右:明治)

2c-3◆南町 2850 プロジェクト周辺（酒蔵再生、絵本の蔵等） 評価:4.50 内訳:AAAAAAAAABBB

評価A●様々な形で蔵が活用されており、蔵の回りの緑の空間も含めて、とてもいい雰囲気を生み出している。

評価A●荒廃していた酒蔵（醸造老舗金忠＝廃業）を地元高校生と住民が活動し、蔵や蔵座敷の再生が見どころとなっている。見学できなかった小原酒造、外観が歴史を感じさせ、もう一度来たいと思った。

評価A●現代アートを取り込んでいることに今後の可能性を感じた。高校生が参加したり、チャレンジショップなどの取組みもあるとのこと、地域で生活する人たちのための空間となることに期待します。

評価A●廃業した酒蔵を地元で買い取って再生させる取組みが素晴らしい。伝統的建築物をどう使うべきか試行錯誤している状況であり、地元大学を含めた取組みなど、知恵の出どころという感じがした。

評価A●再生した建物を商業的な活用だけでなく、学生等も取り込んだ全体的な取組みが面白い。

評価A●空家に屏風絵を飾ったり、蔵に絵本を並べたり、地元資源をみんなで大切に使う気風が感じられた。

評価A●今後の街並みの魅力向上の予感をさせる取組みだと感じました。

評価A●いろいろな工夫が功を奏している。

評価A●人が温かく観光客に好意的だった。

評価B●町並みの背後に広がる広大な敷地の有効利用は極めて重要。巨大な木造3階建て倉庫・作業場（外部のみ見学）を含め、活用しがいのある空間や建物があると思う。

評価B●小田付地区の建物利用は、小荒井地区に比較して地域住民利用を目的としたものが多いように感じました。これは素晴らしいことだと思います。

評価B●絵本の蔵のアートが素敵でした。

2c-4◆東町蔵屋敷「会陽館」、蔵屋敷「あづまさ」一帯 評価:3.67 内訳:AAAABBBBBBBBB

評価A●意見交換会を行った会陽館（蔵の再生）は明るく、会議スペースとして上手く設計されている。蔵座敷「あづまさ」は、旧家をうまく活用し、料理店としている。

評価A●一本裏の通りも含めた街並みが維持されており、生活との一体感があった。会陽館の保存・維持のうえ、地域の核施設として活用されるのを期待したい。

評価A●旧街道らしい狭い道の屈曲や広い庭園を擁した旧家の佇まいなど、一味違った趣きが感じられた。

評価A●いろいろな工夫が功を奏している。

評価B●遺産の宝庫のように思える。

評価B●会陽館のような蔵を活かした集会施設があるのは良いですね。

評価B●説明を聞きながらの蔵めぐりはとても面白いものでした。

評価B●観光客と地域住民が共に利用できる施設に育つと素晴らしいと思いました。

評価B●交差点を過ぎると雰囲気ががらりと変わる。この部分の修景を進められないだろうか。

評価B●車の主要動線から外れているので、落ち着いた空間が形成されている。

評価B●中心地の「町屋」が並ぶ地区とは趣きを異にしているが、在郷町らしい屋敷地が並ぶ地区として貴重。小田付地区にはそれぞれ異なった建物・屋敷からなる町並みから構成されていること、これもひとつの特徴をなす点であると言える。



小田付地区／南町 2850 プロジェクトの廃業酒蔵



小田付地区／東町蔵屋敷あづま付近

2-5 ■喜多方を今回歩いた中で特に印象に残った場所・建物等

若喜商店★店舗部分が、買い物に心地よく、カフェでも。

甲斐本家★特に暑い日など、庭園を見ながらくつろげる場所は良い。

三十八間蔵・中の越後屋付近★ふれあい通りに間口の広い壮麗な蔵造のファサードが続き、美しく圧巻だった。

ふれあい通りのラーメン神社★ミーハー的だが楽しい。喜多方に来たという実感がわいた。

喜多方ラーメン（福島屋）★初めて食べる地元の喜多方ラーメン（味噌大盛）は美味だった。満足！

出雲神社周辺の長屋★突如現れる長屋。

出雲神社周辺の長屋★明治の長屋と昭和の長屋が対峙する風景がユニーク。

和飲蔵★元呉服屋の蔵をワイン蔵に改装、定例の会合は親密で豊かそう。

和飲蔵★蔵をうまく利用したよい事例だった。

和飲蔵★地元の皆さんの居場所としてうらやましい事例。

和飲蔵（ワインセラーとレコードに聴ける居間として利用していた蔵）★お父さん達のたまり場。

金忠発酵蔵★大きな蔵で糶を貯蔵している。

戊辰戦争の屏風絵★空家に飾ってあった。貴重なお宝を公開し、歴史を伝えたいという誇りが伝わってくる。

絵本の蔵★蔵の温かな雰囲気絵本と相まって魅力的な場所。畳などを敷き、座って本を読めるようにしては、

絵本の蔵★子どもやその親たちをここに引き入れる仕掛けは？と考ええると楽しい。

絵本の蔵★アートが素敵。

絵本の蔵★こういう蔵の使い方があるとは！南イタリア風で衝撃的だった。

小原酒造周辺★それぞれ特徴を持つストックが個性的で楽しい。

会陽館周辺★官民連携の良いモデル。

伊関邸（小田付郷町衆甲斐郷頭）★美しい庭園を案内いただいた。地域の方とのふれあいがすばらしい。

小田付の水路★敷地内を水路が貫通して流れているのがなかなか面白い

保存された水路、埋まりつつある水路★これぞ伝統。

昔の敷地割が残る★これも伝統。

裏通りが残る★昔のママ。

2-6 ■小田付地区の今後のまちづくりに提案を

●これまでは喜多方と言えばふれあい通り商店街、というイメージでしたが、すぐ近くに在郷町としての営みや繁栄を感じさせる、より親しみの持てる街並みが残っていることを初めて知りました。今でも生活の場としての通りになっていますので、その環境を壊さずに、個人の訪問客が、地域のことをよく知るガイドに案内、説明をしてもらいながら街並みや歴史を知り、ところどころで美味しい飲み物や料理が楽しめるようになると、とても魅力的なまち歩きができるようになると思います。宿泊としての利用の可能性も十分あると思います。今後の地域の方々の頑張りに大いに期待したいです。

●今まだ観光化されていないが、整備が進むと観光客も受け入れることになると思うので、その想定は必要だと思う。しかし、地域住民（及び周辺住民）の生活のための活用を考えてはどうだろうか。小田付地区は裏に生活道路があるので、これを日常生活動線として地元の人たちで蔵の活用を考え、第2、第3の南町 2850 プロジェクトを連続させていく。

- いわゆる歴史的な街並みというよりも、各時代の多様な建物が混在して残る町なので、南町 2850 や会陽館、はたまた和飲蔵のように、地元の人が活用することを主体に進めていくと面白い結果になると思う。またそれがふれあい通り地区と差別化し、相乗効果をもたらすことになる。
- 蔵という舞台がある中、見て楽しませるだけでなく、客が体験して楽しむことができればよい。昔遊びや音楽などで提供できるものはないか。
- 多様で自由に活気のある街であってほしいと思う。
- 建築、水路、裏通りのバランス良い保全。
- 重伝建による整備が進むことを期待する。南町 2850 プロジェクトの継続を期待する。行政の全国伝統的建造物群保存地区協議会、住民の全国町並みゼミへの参加による他事例の勉強を通じて、歴史的資産を活かしたまちづくりを進めてほしい。
- これまでの地域の地道な活動が実を結んだことがわかりました。昭和30年以降の建物等を指定することから、ストックの内容や質にバラつきがあるのをどう修景するか、それらの間にある新しい建物の修景も大事だと思いました。多様な形を認める上では、一般的なガイドラインとは違った仕組みが必要だと感じました。
- 伝統的建造物保存地区の指定をテコに、良い意味で、ふれあい通りと競い、地元の皆さんも楽しめる街にして欲しいと思います。
- 小荒井地区と同じ形で競うのではなく、異なった観点で地区の魅力を高めて欲しいと思います。例えば小荒井地区の一般観光に対して、地域住民の活動や宿泊体験型観光の観点の歴史的建物利用など。そうすれば二つの地区は連動してウインウインの関係になると思います。
- 小荒井と小田付という2つの地区が川を挟んで対比的にあるので、それぞれが独自のまちづくりを進めるのと合わせて、両方の街をつなぐ回遊性ができれば、全体として非常に魅力的な街になると思う。



小田付地区／南町 2850 プロジェクト・絵本の蔵



東町蔵屋敷会陽館にて小田付町衆会と意見交換

3◆◆下郷町大内宿のまちづくり（重伝建地区）

3-1◆会津西街道・大内宿（全体）

評価:3.83 内訳:AAAAAABBBBBBC

評価A●交通の便も悪い所、街並みだけでこれだけの集客、特に海外からの観光客も集めるのがすごい。

評価A●保存の経緯から課題はあるものの、観光客を集めながら町並みとしてこれだけきれいに維持保全されてきたことを評価したい。

評価A●自ら望んだわけではないのに観光地となってしまった大内宿だが、観光と生活をしっかり共存させているのは非常に興味深い。

評価A●一大観光地となりながら、今も村民たちがそこに住んで農業もやっていることが大変素晴らしい。

評価A●伝建地区の維持には、様々な課題がつかまとうものだと痛感した。

評価A●大内宿は4年前に見学し、今回町の担当者のお話を伺うまでは、「テーマパーク」でよいのでは？と思っていた。しかし、長い時間をかけた取り組みの中で、建物所有者の方々が色々な思いがある中でも、「売らない、貸さない、壊さない」という原則を守り、生活し生業を営みながら建物を修復している家並みだということに驚いた。これまでの歴史、それぞれの家の物語を知らなくてはいけないと思った。

評価B●「売らない、貸さない、壊さない」を守ってきた意思と努力で集落景観が残ったことを評価します。

評価B●休日ということもあったが、訪問者の数に驚いた。それでもその数はすでにピークを越えているとは別の驚きもあった。

評価B●大内宿は何回か来ていますが、相変らずの活気のある観光地で、外国人観光客も増えているようです。
評価B●観光地となっている。外国人観光客もみられるが、大内宿の歴史的な意味を理解できているかなった。
評価B●観光としての価値ばかり??
評価C●観光客が多すぎる。販売されている商品や提供されている飲食物の多くに魅力がない。

3-2◆茅葺きの連なる家並み景観

評価:4.33 内訳:AAAAAABBBB

評価A●重伝建地区として、茅葺の大型民家が軒を並べる景観が良く残されている。
評価A●今回改めて感じたが、現在までこの町並みが残っているのは、やはり奇跡だと思う。凄い迫力です。
評価A●これだけの茅葺き民家が立ち並ぶ風景は貴重。ただ、前の方だけ「修景」で茅葺きに替えているのは、少しやりすぎのようにも思える。映画の撮影所のような感じすらして、やや現実味がなくなる。
評価A●「茅葺きの家」の集合体として圧倒的と思う。
評価A●特徴のある茅葺は印象深い。土の道路も合っている。
評価A●ほぼ全体で茅葺景観が保たれており、関係者の努力が感じられる。
評価A●蔵造りの街並とはまた別の、やわらかで庶民的な雰囲気。
評価B●茅葺は見事に連なっていますが、売店の風情がせつかくの景観をやや損なっていると感じます。
評価B●茅葺の連なる家並み自体は良いが、ほとんどがお土産屋だと偽物っぽく見えてしまう。
評価B●茅葺の連続は建築造形であるが、1階のさし掛け店舗部分の連続が興ざめ。
評価B●お土産物屋になる前は、どのように使われていたのだろうか。そこが最も体験したいのだが。



茅葺屋根の民家が連なる大内宿の風景



伝統民家を利用した観光客向けの土産物屋

3-3◆見晴台からの眺望

評価:4.33 内訳:AAAAAABBBB

評価A●街全体を見せるスポットが在ることは、街並みを売りにする観光地としては重要。
評価A●見晴台が街道のアイストップのような位置にあることが意外でした。
評価A●高台から眺める茅葺屋根の連なる景観は、聞きしに勝る素晴らしさである。
評価A●ここのウリの茅葺き屋根が一望できるのは格別。
評価A●上から眺める景観は見事です。
評価A●土の階段を上っていく。新たな階段処理がなされていないところがよい。
評価A●こうして俯瞰して、町並みが一望できる場があることはとても良いこと（観光地としての強みとなっているはず）。登り坂はきつい、これを利便性の向上というようなことで変に整備することは、文化的価値を損なう（簡単に登れるようになれば、それだけで価値は半減してしまう。「やっとの思い」で登ったからこそ、見ることができる風景として大事にしていきたい）。
評価B●集落にとって屋根が統一されていることが最も大きなアイデンティティだと良く分かります。
評価B●観光景観としては評価できる。
評価B●眺望もよいし、家並みもよいが、大内宿と旧街道の関係性が今一つわからなかった。
評価B●ここが観音堂であり、そこから集落を一望できるという意味と関係性が観光客に全く伝わっていない。

3-4◆裏側の生活空間

評価:2.75 内訳:AAABBBBBCCCCD

評価A●きちんとした生活空間があり、しかも美しい建物で設えられていることに驚いた。今も住み暮らしている（コミュニティが維持されている）集落であることは、保存にとって極めて重要な意味を持つ。

評価A●田畑もあって、落ち着いた瑞々しい風景。

評価A●生活実感が伝わってきた。

評価B●表と打って変わって、生活感があふれる。

評価B●裏側に生活空間があることで、ここがテーマパークではないことがわかる。

評価B●それぞれ努力していると思うが、必要な生活空間はそれとして整備する必要があると思う。

評価B●見られることを意識すれば、整える必要があるのかもしれませんが、生活感があっても良い（あまり整えなくてよい）のではないかと思います。

評価C●見てはいけないものを見てしまったような気持ちになった。

評価C●難しい問題であると思う。表側をこれだけ大勢の観光客が無邪気に徘徊している現状で、裏側も公開することはかなり難しい。ただ、本来の「農家」としての佇まいもあってよいはず。住民の私生活の確保との両立はかなり難しい問題であろう。

評価D●良好な生活環境ということと美しい景観という双方から考えても、あまり良くない状況です。改善の余地が沢山あると思います。



見晴台(子安観音境内)から大内宿を一望する



大内宿の裏側に広がる農家の生活空間

3-5 ■大内宿を今回歩いた中で特に印象に残った場所・建物等

集落中央にある大鳥居★高倉神社の鳥居、縄文文化を連想される。

見晴らし台★伝統的な街並みはほかにもあるが、一望にできるところは少ない。大変貴重。

見晴台から眺める屋根の連なる景観★素晴らしい。

茅葺屋根の土産物屋群★外部資本を入れずに、地元農家の直営だけというコミュニティ強固さに感動。

茅葺屋根の葺き替え作業中の家★葺き替えの技術や仕組みが継承されていることを見ることができた。

赤い屋根の旧小学校★里山を背景に可愛らしい。地域の活動拠点として活用されているとのこと。

集会所から裏にまっすぐ伸びる参道・農道★意味もなく感動した。

裏側の生活道路★観光地としては成功しているが、相変わらず表通りの景観だけの世界。

裏側の生活空間★このような観光地化した所に今も住み暮らしていることに非常に驚き、感心した。

3-6 ■大内宿の抱える課題に対する提案を

●大内宿は宿場町としての特性がある一方で、里山、農地、神社、寺が全体で調和する農村景観を形成している。大内宿を形成してきた文化的な背景から大内宿を見ると更に味わい深くなる。見学ツアーなどを企画し、学ぶ体験観光がよいと思う。

●大内宿の町並みは最高の観光資源として評価され続けており、現在まで町は観光地として栄え続けています。しかしそれに甘んじて観光が深化していないと感じました。これだけ素晴らしい建物、裏の農地、周辺の山という資源があるので、欧米でいうグリーンツーリズムやアルベルゴ・ディフーズという考え方の長期滞在型、体験型観光を展開すれば、さらに観光地としての発展は間違いないと思います。

●農村の生活を体験し楽しめる体験型観光などを増やし、グリーンツーリズムのモデルにもなって欲しい。

●観光資源として来街者が多い中で、小さな町の小さな組織による保全管理が行き届いていくのか心配。沿道の営業者たちの一体感がなく、各自の競り合い感が漂う。萱の調達もままならないという中、今後どうなる。

●伝統的建築物とその景観の維持がサステナブルな状況でないことに驚いた。産業の状況も収益のあり方も変わる中で、旧来型の生産体制に依存するのでなく、新たなサステナブルな形を模索する必要があると感じた。

- ほぼすべての民家で観光客相手の商売をしていて、それが本業となっている（農業はすでにメインではない）現状。しかし、すでに観光客は数的にピークを過ぎているという。それでも今時点では日本全国でもこれだけの観光客が訪れる集落はそうないはずであり、多くの観光客が訪れている今の時点で将来への新たな「企画」「戦略」を講ずるべきであろう。意見交換会での説明では「売らない、貸さない、壊さない」という原則を守ることが唯一の住民的合意であり、そのことはここまでの段階では町並み保存において非常に重要な役割を果たしたことは事実であり、重要なことである。しかし、では将来、住民はこの集落をどうしていくか、どうすべきかということに積極的に対応することを躊躇しているようである（将来計画を模索中とは聞けるが、「宿泊」を伴う業態へ移行することには消極的であるなど）。すでに個別での農業は縮小され周囲の農地も荒れ始めているように見える。周囲の山々も本来の「里山」としての役割をなくし、おそらく荒れているはずである。茅葺民家が連なる通りの風景も大事であるが、町並みの背後の農地や里山の豊かさがなくなれば、その価値も半減してしまう（まさに映画のセットと同じになってしまう）。周囲の農地や山の保全と活用も同時になされるべきであり、そのための方策はあるだろう。まさしく「軒並み」同じような陳腐な土産物や食物だけを商う観光業から、もう一段階グレードアップした観光に移行すべきである。住民はすでに観光を商売としていることを自覚して、それなりの覚悟をもって文化的観光の先駆的試みを取り入れるべき時ではないだろうか。
- 「売らない、貸さない、壊さない」という3原則は素晴らしいが、新たな人が入れないことによる限界もあり、観光地としての魅力を継続するには少しずつ新しい人材を受け入れる仕組みをつくる必要があると思う。
- 土産物店、飲食店の活性化。現在も多くの観光客で賑わっているが、本物志向、農業との連携等で質の向上を。伝統的なものと新鮮味のある店舗がバランスよくあるとよい。賃貸を認めることも検討してよいのでは。
- 茅葺屋根が見事に連なる街並みを残したことは、非常に素晴らしいことだと思います。集落の価値をより高めつつ生活のための利益も確保するために、現状の利益の少ないまたその土地でできたものではない土産品を多くの人に売ることよりも、伝統的な基幹産業が農業や林業ならば、例えば、（宿泊施設を個々の家で運営することは難しいとのことでしたので）木を活かした宿泊施設を集落と別に設けて大内宿ならではの経験を楽しんでもらうとか、地域で採れる美味しい食材による料理を落ち着いた環境の中で提供する、あわせて実現や運営のため、地域への理解のある外部の企業を呼ぶことや、利益を集落全体で享受できるしくみを考える、などが考えられるのでは。
- 上から押し付けられて景観を維持させられていると考えずに、景観価値を自ら理解し、自主的、自発的に保全したいと希望する人がいれば、そういう人を育て、事業を継承しては如何だろうか。
- 住民が「保存させられている。」という思いを小さくするには、外部（訪問者）の反応も大事。ありきたりの物販や飲食だけでは飽きられるので、保存にかかわる作業の体験を（茅刈りや屋根ふき）提供してみてもどうか。訪問客から保存への理解や協力が得られれば、意識も変わるのでは。
- 日常生活のしやすさのために、裏側の生活空間エリアを工夫する。裏側の道路を活かした生活動線の整備、茅葺建物とは別に日常的に寛げるスペースの確保（子どもの遊び場など）
- 大内宿の悩みは、地元住民が集落に、文化財建物に住み暮らし続け、外部資本に頼らずに営業しているゆえのものであり、街並みの外見だけでなく、こうした真面目なコミュニティの姿勢こそ大変貴重なものと思う（ハードだけでなくソフトも保存されていると言える）。一方で、同じような観光土産物屋が並ぶ中身が薄い状況は、今後の文化観光・体験型観光への潮流の中で取り残される恐れが大きい。元来、会津西街道の宿場であるのだから、県と協力して街道観光の視点を導入し、宿場の歴史を深く掘り下げたり、他の宿場・城下町（会津若松、日光など）との連携を図ったり、街道ウォークを実施したり…が効果的ではないか。



大内宿の一角に設えられた広場空間



大内宿集会所にて下郷町役場と意見交換

4◆◆二日間全体を通じて、今回の企画全般に対する感想など

- 私にとって福島はこれまで縁遠い地域で、ましてや奥まった若松、喜多方、大内はどんな所か、心弾ませて参加させてもらいましたが、対象としては期待以上でした。それは当日まで準備に勤しまれた事務方のお手配によると思います。こんな詳細な評価を問われると思っていなくて、ボヤーと通過してしまい叱られかもしれませんが、感謝を込めて返信します。ありがとうございました。(O/M)
- 見学内容、ヒアリング、意見交換全てにおいて充実し、密度の濃い2日間でした。休日にも関わらず対応いただいた地元や自治体の方々に感謝するとともに、参加された皆様の熱心さにも感心しました。地元との意見交換の中で、個々の店がしっかり稼げないといけない、お金を落としてもらう必要があるといった意見が何度か聞かれましたが、我々は街の写真を撮るだけでお金を落としていないので、一番迷惑な訪問者の部類だと気が付きました。いつか、再度訪れたいと思います。(F/M)
- 伝統的町並保全に取り組む、特徴的な3つの事例。それぞれ取組みの経緯や詳しい内容を伺うことができ、大変貴重な体験を致しました。町の活性化のためには外から人を呼込む事はもちろんですが、長続きさせるためには住民にとっても立ち寄りやすく居心地のよい場所である事が大事だと改めて感じました。(M/M)
- 街の繁栄の歴史や、地域固有の生活文化が建物に表れているのを見るのは、楽しかった。翻って、すぐに更地にして建て替えてしまう今の建築は、まるで根無し草のようだった。(I/S)
- 例えば「蔵」といっても建てられた時代によって一つ一つ異なる（これまでも、川越に行くたびに荒牧さんに言われた記憶がありますが）・・・その一つ一つが違って、一つ一つが楽しいということを、心から語ってくださる方々がおられること、素晴らしかったです。(S/M)
- 会津若松、喜多方、大内宿と3つの個性的な街を歩くことができ非常に面白かった。特に大内宿はテーマパークのようですが、観光地にならなければ消滅していてもおかしくない立地であり、これから地方都市が生き延びるには何が必要なのかを考えさせられます。(K/T)
- 綿密な企画で、地元のキーパーソンの方や行政の方のお話がそれぞれの地区でお聞きでき、とても有意義なまち歩きの二日間でした。企画及び地元行政との調整をいただいた横田さん、事務局の呉さん、徳竹さん、野口さんに感謝です。ありがとうございました。(H/M)
- 一つの地方の中で、若松、喜多方、大内宿と、伝統的な街並みを活かした三者三様のまちづくりの現場について、中心となる関係者の方々と調整していただき、見学や意見交換を実現させた横田さんの周到な準備に感謝を申し上げます。(G/Y)
- ①事務局体制がよく、十分に練り上げられた研究会だった。②若い会員の参加があり、多彩なメンバーの参加により厚みのある現地研究会だった。③地元でまちづくりに取り組んでいる方々との意見交換、普通の旅行では見学できないような所の見学ができ、「極上の会津」を堪能できた。④今回の開催地を継続してみたい。5年くらい先、再度、会津現地研究会を開催したい。(Yo/Y)
- いつも感じますが、「都市と住宅を考える会」の国内研修はとても充実しています。今回も横田会員をはじめ関係者の事前の企画と準備で、最高の視察に参加させていただきました。ありがとうございました。(N/M)
- 飛び入りのような形でしたが、まちが好きな皆様の中に入って企画に参加させていただき、大変ありがたかったです。(K/Y)
- 大変充実した企画でした。町の奥深くまで拝見できました。地元まちづくり関係者の方々が単なる見学対応ではなく、突っ込んだ意見交換の場として協力いただいたのが何よりでした。ありがとうございました。(O/R)
- それぞれに町並みでいろいろな方と出会い、お話を聞けて、とても勉強になった。町並みの保存と活用は、制度も大切だが、まさに「人頼り(頼み)」であることを実感できた。(Ya/Y)



会津若松／味噌と田楽の満田屋前にて